

# 大西洋クロマグロ 東大西洋

## Atlantic Bluefin Tuna, *Thunnus thynnus*

### 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

### 最近一年間の動き

2004年の公式漁獲量は約32,500トンで、最多時の1990年代半ばの約6割。2006年4月にマジョルカ島(スペイン)での第4回クロマグロ管理戦略会議では、産卵親魚の保護のための産卵場での禁漁期・禁漁区、東西系群の混合を考慮した新たな資源管理の枠組みを検討し、6月にはマドリードで資源評価を行った。11月の本会議でTACを2006年の3.2万トンから2007年に29,500トンに、その後2010年までに25,500トンまで削減が決定した。

### 生物学的特性

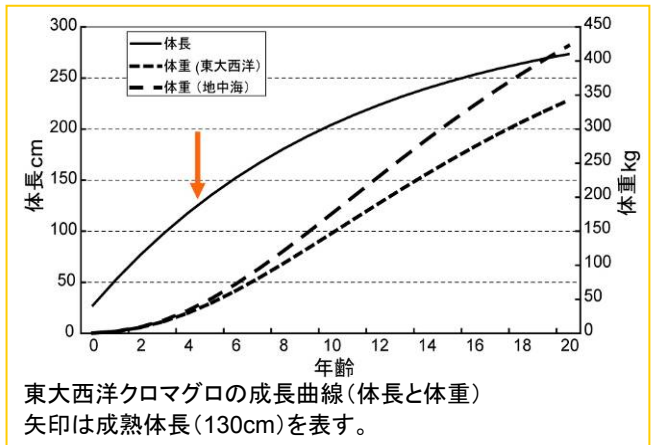
- 寿命: 25~30歳
- 成熟開始年齢: 4~5歳
- 産卵期・産卵場: 6~8月、マジョルカ島からシチリア島にかけての地中海
- 索餌場: 地中海、ビスケー湾等、北緯35°以上の北大西洋
- 食性: 魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者: まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

### 漁業の特徴

主な漁業国はスペイン、フランス、日本、イタリア、モロッコ、トルコである。日本ははえ縄、スペインは定置網と釣り、フランスはまき網、イタリアは定置網とまき網で漁獲を行っている。東大西洋と地中海では小型魚が漁獲されており、特に後者の水域で漁獲量が多いが、正確な統計は得られていない。

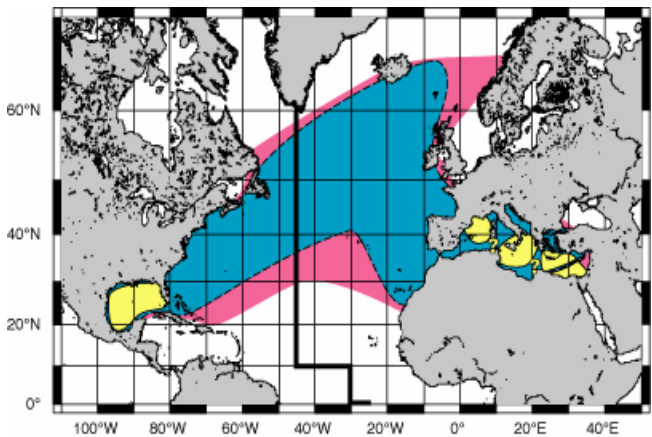
### 漁獲の動向

2004年の漁獲量は32,500トンで、過去5年間で最低である。2004年の公式の漁獲量は過去最高を記録した1996年の50,762トンの約6割まで減少しているが、実際の漁獲量はこれより大きいと思われる。なお2005年の漁獲量は未確定である。近年、地中海において蓄養が増加の一途をたどっている。

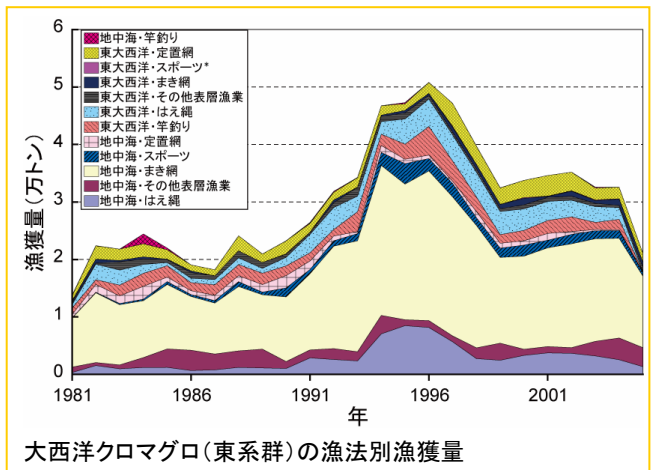


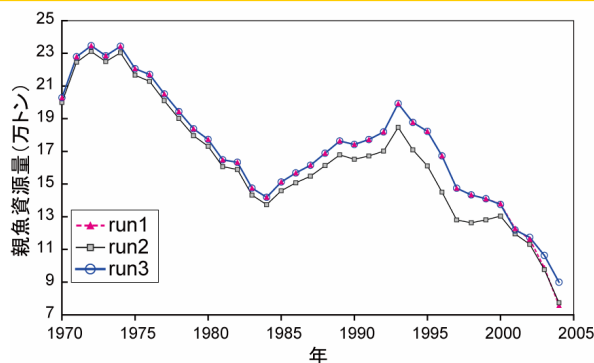
### 利用・用途

すし、刺身

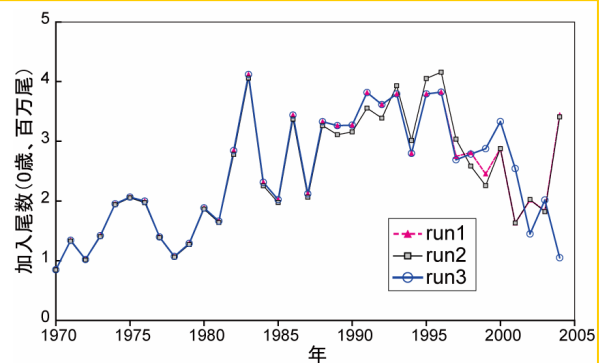


本種の分布域(赤)と主要漁場(青)、産卵場(黄)  
縦太線は系群の東西の区分、索餌場は産卵場を除く分布域

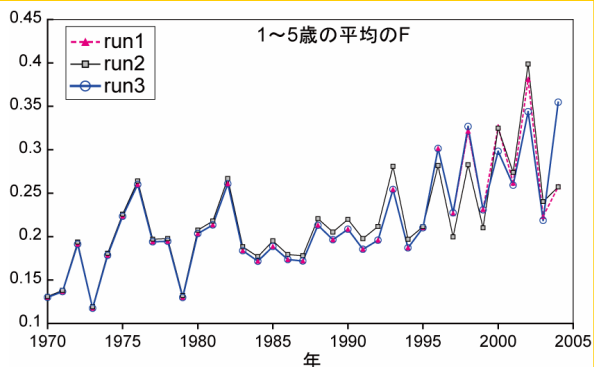




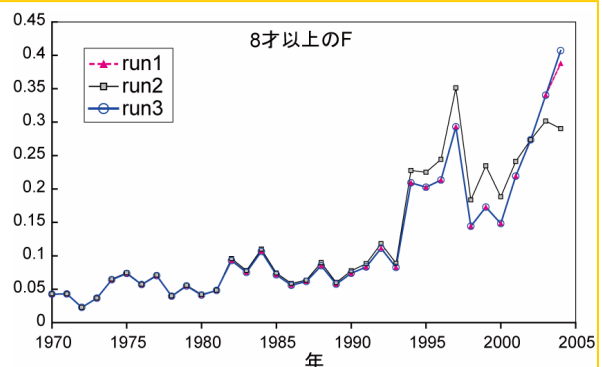
大西洋クロマグロ(東系群)親魚資源重量



大西洋クロマグロ(東系群)加入量



1歳から5歳の漁獲死亡率の平均



8歳以上の漁獲死亡率

## 管理方策

TACは29,500トン(2007年)から徐々に25,500トン(2010年)に削減し、その国別割り当ては2007年1月の中間会合で決定予定。他の規制は、地中海のまき網漁業の禁漁期の設定と魚群探査用の航空機利用の禁止、蓄養の管理強化、小型魚の多獲を削減のための30kg以下の小型魚の漁獲・陸揚げ・販売の禁止がある。

## 資源管理方策まとめ

- 2007年から2010年のTACは、29,500トン(2007年)から徐々に25,500トンまで(2010年)に削減
- 地中海のまき網漁業の禁漁期設定、東大西洋の一部と地中海のはえ縄の禁漁期設定
- 蓄養の管理強化
- 30kg以下の小型魚の漁獲・陸揚げ・販売を禁止

## 資源状態

近年、全年齢(特に大型魚)の漁獲死亡率が大幅に上昇しており、親魚資源量は継続して減少している。資源水準は低位で、減少傾向にある。

## 資源評価まとめ

- 資源評価はICCATの科学委員会で実施
- VPA-2BOXにより資源評価
- 不確実性は大きい資源水準は低位・減少傾向

## 大西洋クロマグロ(東大西洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	調査中
資源動向	横ばいから減少
世界の漁獲量 (最近5年)	2.2~3.9万トン 平均:3.4万トン (公式漁獲量、科学委員会が推定した2004年の漁獲量は5万トン)
我が国の漁獲量 (最近5年)	2.6~3.0千トン 平均:2.8千トン